

## 就活スタート！とりあえず何かから始めた？



「私立W大学スポーツ科学部・4年生」  
ミッキー  
「内定先」  
印刷会社「I」社



「私立W大学文化構想学部・4年生」  
kiwi  
「内定先」  
Sier「N」社



「国立H大学社会学部・4年生」  
とまと  
「内定先」  
Sier「N」社

## ミッキー

僕が就職活動をはじめたのは3年生の6月。まずは就活アプリをインストールすることから。夏のインターンは少しでも興味があればどんどん応募して、まったく異なる業界4社でインターンしました。利用したアプリはたくさんあって、ESの参考になるものやOB訪問で使えるもの、就活生の動向がわかるアプリなど使い分けていました。中でも採用プロセスごとの体験談やアドバイスを把握できるものもとても重宝しましたね。僕はインターン直後の8月から12月まで語学留学に行ったので、年末までの数ヶ月間はまったく就活はできませんでした。

## kiwi

私は大学2年生の時に1社だけ、学部学年不問のインターンを体験させていただきました。本格的に就活をスタートさせたのはミッキーと同じ、3年生の6月頃。当初は総合テレポートバーを志望していたので、夏に不動産業界2社のインターンに参加しています。人と人のつながりを生み出す「場」づくりに関心があつたからです。私もアプリはスカウト系のもの、ベンチャー企業が充実しているものなど活用しましたが、同じく他の就活生の就活体験が読めるものはとても良かったです。就活系のアプリはとでもたくさんあるので、忙しくなる前にどう絞るかもポイントですね。

## とまと

私も3年生の5月頃から就活に本腰を入れました。はじめは、参加特典がほしくて色々な合同説明会に行つて。大学協会のセミナーも参加しました。学内開催なので一般的な合同説明会よりも少人数でじっくり企業のお話を聞くことができるメリットに魅力を感じたので、それ以降も参加していました。私は特にやりたいことが明確になっていなかったので、夏に参加したインターン7〜8社も不動産、インフラ、メーカー、ITとさまざま。アプリではやはり体験談が豊富なものが人気ですね。スカウト系アプリは私も使っていました。ナビサイトは、企業を調べたり合同説明会の情報を仕入れたら、初期には使っていたけれど、自分なりに業界や企業の研究が進んでからは、ほとんど使わなくなりました。

## ミッキー

留学から帰つてきて、就活を再始動させたのは年明け以降になってから。もちろん遅れを取り戻さなければならぬので、かなり焦りはありましたが、相変わらず特定の業界に絞らずに動き続けました。選考中や内々定が出た後にも自分の意見が変わる可能性があるし、もらえる内々定は全部もらつてから考えようと思つていました。1月に2社、冬のインターンに参加して、3月にESを提出して、その後面接ラッシュ。比較的早い5月の段階で行きたい企業から内々定が出たので、志望度が低いところは途中で辞退させていただきました。

## kiwi

私はもともと江戸時代のカルチャーが好きで、2年時には日本の伝統芸能を扱っている企業に関心を持っていました。ですが、考え方は徐々に変わっていききましたね。3年夏の時点で志望したのが総合テレポートバー。でも、なかなかインターンに参加ができず、視野を広げる必要に迫られました。サークル活動が年末まで忙しかったこともあって、1月になってから目に入ったのがSierです。ITはあらゆる業界、業種に関係があつて、可能性も無限。不思議な縁ですが、不動産業界は全落ちしましたが、IT業界からは5社の内々定をいただきました。

## とまと

夏のインターンを終えて、私なりにフォーカスしたのが「IT/通信」でした。冬のインターンでは、IT業界に絞つて参加。その後は、練習も兼ねて、スカウトが来た会社の面接もいくつか受けました。自分のことを話す回数を重ねたおかげで、いざ本命企業の面接では、あまり緊張せずに挑めた気がしています。志望企業から内々定が出たのは3月末でしたが、そこは2週間の職場受け入れ型インターンに参加した企業でした。日数の多いインターンに参加すると、その後のプロセスで優遇が受けられる傾向は実際にあるように思います。

オンライン面接

就活アプリ

さまざまなツールは出てきても、  
「自分を見つめる」ことこそ  
就活だということは変わらない。

後輩に伝えたいコロナ禍における就活のポイント



とまと

国立H大学社会学部・4年生  
【内定先】SierfN社

仕事は、人生の大半の時間を占めるもの。企業選びは、きっと自分の人生選びにつながっている。



kiwi

私立W大学文化構想学部・4年生  
【内定先】SierfN社

就活にだけ心血を注ぐよりもっと大切なことがある。それは好きなこと、楽しいことに熱中しておくこと。



ミッキー

私立W大学スポーツ科学部・4年生  
【内定先】印刷会社「T」社

就活の正解が何かなんて、誰にもわからない。だから、自分が選んだ道を正解にするのが良いと思う。

**とまと**  
面接がオンラインになったことで、多くの学生が同じ待合室で待機することがなくなりました。自室でリラックスして面接に挑めますし、提出したESを手元に置いて会話ができるというメリットもあります。ただし、目線には注意が必要。カメラを見てお話をしながら、面接官の表情も見るのは、慣れるまでは大変かもしれません。グループディスカッションでは、最初に主導権を取った人が最後までリードすることになるので、同じ空間で議論をする以上の難しさもありましたね。

**kiwi**  
そうですね、新型コロナウイルス感染症流行の前と後とは、企業側の考え方も激変しましたし、就活にも影響は出て当然。その点では、ただ将来の夢を語るだけではなく、社会的な情勢を踏まえて志望動機を語るなければなりません。個人的には、中学時代から三味線を習ってきたので、礼儀作法や所作が自分の強みのひとつだと思っていたのですが、オンライン面接ではその辺りがアピールできず残念でした。使われたツールは大半がZoomでしたが、画面の大きさにスマホよりPCの方がオススメできます。

**ミッキー**  
2020年に突如として起こったアクシデントは、言うまでもなく新型コロナウイルス感染症の騒動です。航空業界や旅行業界は採用中止にまでなり、振り回された就活生はたくさんいたはずですが、かえってスケジュールに余裕が持てたというのもあるんです。交通費や移動時間といった無駄が省けました。僕は焦って40社にエントリーしましたが、さほど苦勞せずコントロールができました。この傾向は来年も続くと思うので、一応、念頭に入れておいても良いかもしれません。

**とまと**  
通信会社2社、Sierf1社から内々定をいただき、私が選んだのはSierfでした。やはり2週間のインターンで、社外に与える影響力の大きさを実感したのが最大の理由です。もうひとつ理由を挙げるとすれば、仕事とプライベートが両立できる会社だと感じたこと。家族に相談はしましたが、つらい時に人のせいにならなかったことで自分で決断しました。仕事ってこれからの人生のとても大きな時間を占めるものですよ。だからある意味で、職場を選ぶことは、「生き方」を選ぶことでもある。こういう生活がしたい、こういう人生を送りたい。就活という時期を通して、自分が優先したいことが何なのかきくと見えてくると私は思います。

**kiwi**  
新卒採用は中途採用と違って、ポテンシャルが見られます。社会に出てからのような能力を発揮する可能性があるのだから伝えるためには、もちろん大学生までの経験を語ることも重要。だから就活にだけ心血を注ぐのではなく、好きなことに積極的に熱中しておいた方が良いと思います。内々定5社からひとつの企業を決めるに当たって重視したのは、社員の方々の仕事に対する熱量でした。就活から得られた教訓は、先入観は持ちすぎないこと。私は2回も路線変更をしました。が(笑)、もう少し早い段階で業界が絞れたら、各社に対する志望動機も質を上げられたと思います。自己分析と違って、志望動機は応用がききませんからね。

**ミッキー**  
最終的に僕が内々定先を決めたのは、インターンにも参加した印刷会社でした。その理由は、事業領域がとても広いから。紙の印刷だけでなく、デジタル領域や、マーケティング領域など選択肢がとても豊富にあります。ひとつのことに専念するより、いろいろなことができる人生にしたい。あとは社風がアットホームで自分に合っていると感じたことも大きかったです。就活には正解がないので迷うことも多い。僕は、内々定先の社員の方に言われた「選んだ道を正解にすれば良い」という言葉に救われました。就活は社会、経済自分への理解が深まる貴重な時間です。後輩たちには焦らず楽しんでやってほしいですね。